

Globalizationと世銀



大久保良夫

2006年3月29日

意見等はすべて個人のものであり、世銀その他の組織の意見ではありません。

世界の人口と所得
(出典: World Bank Atlas)
(2003年)

Libreville

| | 人口 | | GNI | | 一人当たりGNI | |
|-------------------------------|-------|--------|---------|--------|----------|--------|
| | (百万人) | (割合) | (\$ B) | (割合) | (\$) | (PPP) |
| 世界全体 | 6,271 | 100.0% | 34,492 | 100.0% | 5,500 | 8,180 |
| 低所得国 (~ \$ 765) | 2,310 | 36.8% | 1,038 | 3.0% | 450 | 2,190 |
| 中所得国 (\$ 766 - \$ 9386) | 2,990 | 47.7% | 5,732 | 16.6% | 1,920 | 6,000 |
| 低中所得国 (\$ 766 - \$ 3035) | 2,655 | 42.3% | 3,934 | 11.4% | 1,480 | 5,510 |
| 高所得国 (\$ 9386 -) | 971 | 15.5% | 27,732 | 80.4% | 28,550 | 29,450 |

Libreville

(参考: 低・中所得国・地域別)

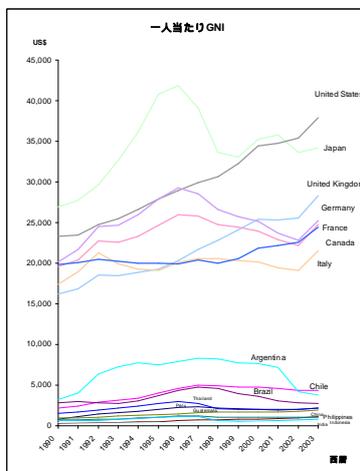
| | 人口 | | GNI | | 一人当たりGNI | |
|------------|-------|-------|---------|------|----------|-------|
| | (百万人) | (割合) | (\$ B) | (割合) | (\$) | (PPP) |
| 東アジア | 1,855 | 29.6% | 2,011 | 5.8% | 1,080 | 4,680 |
| 南アジア | 1,425 | 22.7% | 726 | 2.1% | 510 | 2,660 |
| 中南米 | 534 | 8.5% | 1,741 | 5.0% | 3,260 | 7,080 |
| 中東・北アフリカ | 312 | 5.0% | 689 | 2.0% | 2,250 | 5,700 |
| 東ヨーロッパ | 473 | 7.5% | 1,217 | 3.5% | 2,570 | 7,570 |
| サブサハラ・アフリカ | 703 | 11.2% | 347 | 1.0% | 490 | 1,770 |

Libreville

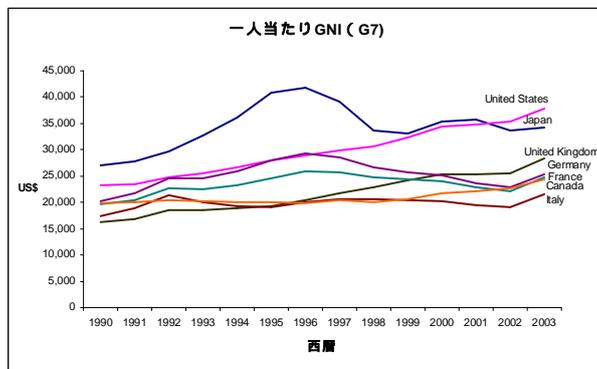
(参考: 主要国)

| | 人口 | | GNI | | 一人当たりGNI | |
|------|-------|-------|---------|-------|----------|--------|
| | (百万人) | (割合) | (\$ B) | (割合) | (\$) | (PPP) |
| 日本 | 127 | 2.0% | 4,390 | 12.7% | 34,510 | 28,620 |
| 米国 | 291 | 4.6% | 10,946 | 31.7% | 37,610 | 37,500 |
| ドイツ | 83 | 1.3% | 2,085 | 6.0% | 25,250 | 27,460 |
| フランス | 60 | 1.0% | 1,523 | 4.4% | 24,700 | 27,460 |
| 英国 | 59 | 0.9% | 1,680 | 4.9% | 28,350 | 27,650 |
| イタリア | 58 | 0.9% | 1,243 | 3.6% | 21,560 | 26,760 |
| カナダ | 32 | 0.5% | 757 | 2.2% | 23,930 | 29,740 |
| ロシア | 143 | 2.3% | 375 | 1.1% | 2,610 | 8,920 |
| 中国 | 1,288 | 20.5% | 1,417 | 4.1% | 1,100 | 4,990 |
| インド | 1,064 | 17.0% | 568 | 1.6% | 530 | 2,880 |
| ブラジル | 177 | 2.8% | 479 | 1.4% | 2,710 | 7,480 |

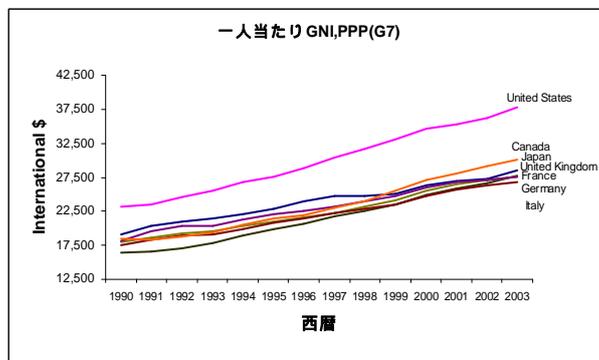
各国の所得のレベル



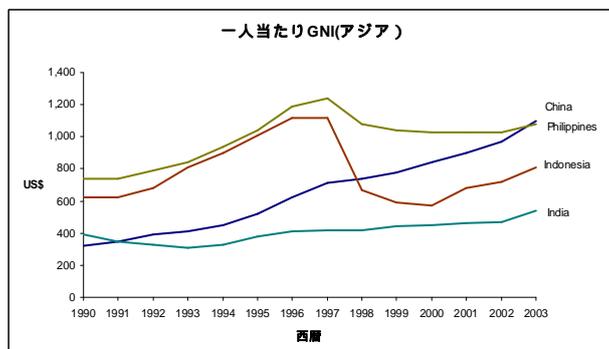
先進国



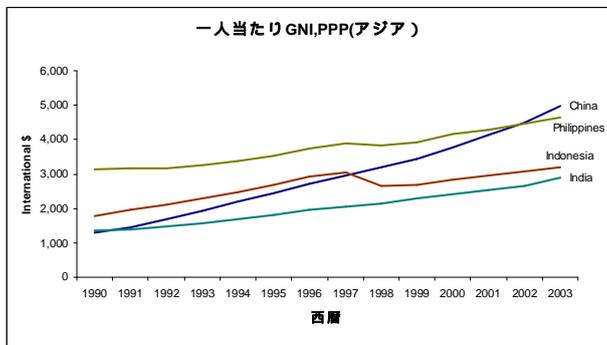
先進国 (PPP)



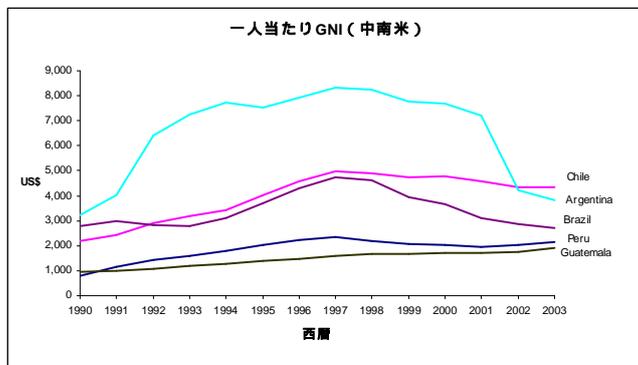
中所得国 (アジア)



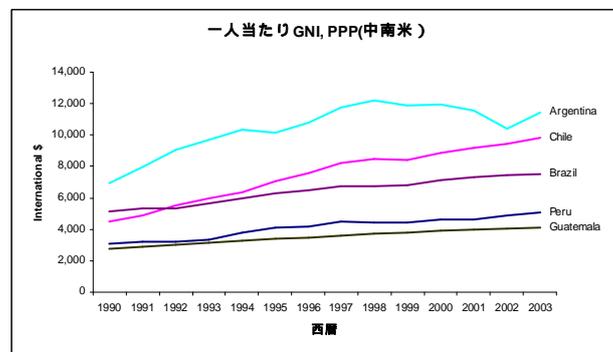
中所得国 (PPP)



中所得国 (中南米)



中所得国 (中南米、PPP)



豊かな国と貧しい国

どうして？

- 一国のなかなら、共通の経済・財政・金融・通貨・教育・司法等の社会制度があり、物と金と人の移動も可能。また、不平等を是正する政策も実施可能。地域文化、方言、コミュニティの存在はあるが共存・共栄が可能。
- 国境の存在があれば、その条件は満たされず。
 - 情報の偏在
 - 物の移動(貿易)
 - お金の移動(資本移動)
 - 人の移動(移民)
 - 知識の普及(よりよい制度の構築、能力構築)

CAR - School

世銀の所得分類による融資条件

| 融資資格(注1) | | 一人当たり所得(2004) | 世銀融資条件(JBICにおける所得別分類呼称) | | 主要国 |
|------------------------|-----------------|-----------------------|-------------------------------|--|--|
| IBRD適格国US\$825-US\$685 | IDA/IBRD Blend国 | - US \$ 825 | 20-Year IBRD Terms・IDA (貧困国) | | IDA-only国 スーダン、ナイジェリア、ケニア、カンボジア、ベトナム、ネパール、バングラデシュ、ミャンマー、モザンビーク、モンゴル |
| | | | Blend国 | | バブアニューギニア、パキスタン、インド |
| | | US\$825 - US\$1,575 | 20-Year IBRD Terms・IDA (低所得国) | | IDA-only国 ガイアナ、ジブチ、アンゴラ、グルジア、スリランカ |
| | | | Blend国 | | インドネシア、ポリビア |
| | | US\$1,576 - US\$3,255 | 17-Year IBRD Terms (中所得国) | | IBRD-only国 アルバニア、モルディブ |
| | | | Blend国 | | ボスニア・ヘルツェゴビナ |
| | | | IBRD国 | | ブラジル、ペルー、グアテマラ、タイ |
| | | US\$3,256 - US\$5,684 | 15-Year IBRD Terms (中進国) | Blend国 グレナダ、ドミニカ | |
| | | US\$5,685以上 | | IBRD国 アルゼンチン、チリ、ラオス、ロシア、トルコ 卒業対象国 メキシコ、ハンガリー、韓国 | |

(注1) "FY06 Per Capita Income Guidelines for Operational Purposes"(SecM205-0329)に基づく。
 (注2) 世銀における"中所得国"とは、IBRD適格国全体を指す。
 (注3) IDA適格国であるかは、所得のみでなく、各国の信頼度(Creditworthiness)も勘案して決定される。OP3.10,AnnexD参照。

グローバル化する課題

1. 通貨危機、金融危機、伝播効果等

2. 環境、エネルギー問題等

(森林伐採、気候変動、生物多様性等を含む)

Gambia - ferry

3. インフラの不足、自然災害への対応等

(運輸、都市開発、水・下水等々、地震、台風、津波等々。)

4. 感染症

(HIV/AIDS、マラリア、SARS、鳥インフルエンザ等々)

5. 雇用の確保、民間部門の発展

(投資環境の整備、"Doing Business Reports")

Children with Malaria

6. 紛争からの復興、テロ等

貧困の削減が問題の根本に。

「ODA・情けは人のためならず」

麻生外務大臣講演(2006.1.18.)

- 「ODAは、・・・他人(ひと)を思いやる暖かい気持ちを抜きにやっつけては困る。しかし、かといって、最後は日本のためにしているのだという点を忘れて貰ったのはいけないもの・・・」
- 「我が日本のため、我が国民の、世界における幸福と存在感を高めるために実施するもので、いわば長い算盤を弾く類の事業・・・」
- 「国民から預かった大事なお金を一度よそ様に使って頂き、その結果を大いに自分たちに役立てようという話・・・腰の据わった戦略を必要とする・・・」

国民的利益の視点

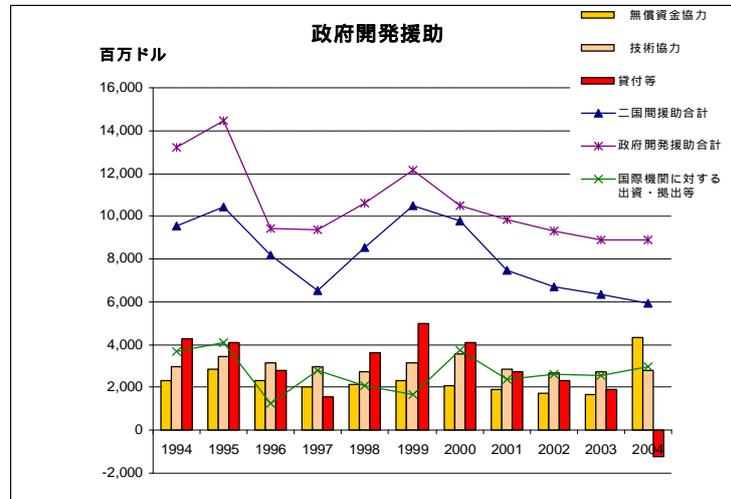
・ 人道支援

全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。国際社会における名誉ある地位。(日本国憲法前文)「人間の安全保障」の概念。

- 貿易、投資の活発化(IBRD協定等)。
- 世界経済の安定的発展。
- エネルギーや資源の安定供給確保。
- グローバルな課題(環境、感染症等)へのより有効な対処。
- 移民問題への対処。
- 安全保障、紛争防止。
- 民主的、開放的な政治経済体制の強化。
- 外交政策上の手段
- 国際公共財の供給への貢献(国際的税金)。

{参考}相互利益。Official or Private。政府、国際機関、民間、NGOの役割。

日本の援助の推移



「顔の見える援助」とは？

- 感謝される？
- 相手の立場(目線)で考える？
- 存在感がある？
- 透明性があり、責任体制が明確？
- 相手国政府、国民から見て？
- 他の援助国(ドナー)から見て？
- 自国民から見て？
- 「顔の見える援助」と「効果の上がる援助」？

「効果の上がる援助」とは？

- 効率性(無駄がない)。
- 公正性(不正がない)。
- 自立性(持続的な成長につなげる。援助依存体質を作らない)。
- 「開発効果 (development impact, development effectiveness)」
 - 「実施 (implementation)」から「結果重視 (results-based)」へ。
 - 「input」[output]から「outcome」「impact」へ。
 - 監視と評価 (monitoring and evaluation) の重要性

政策論：中所得国支援への慎重論

- ・市場アクセス可能に
- ・民間金融機関のクラウディング・アウト
- ・国際機関の貸出文化改革の必要
- ・援助依存から自立への動きへの悪影響
- ・貧困国支援の取り組みへの悪影響

中所得国の実態

- ・国際市場へのアクセス・・・半分以上はアクセスなし。短期ファイナンス中心。コスト高(資料)。マクロ経済の安定性への疑問も基本にある。
- ・国内金融市場・・・脆弱。(FSAP、ROSC、ABMIなどのイニシアティブの重要性。)
- ・貧困、教育、衛生等・・・MDG達成がおぼつかない国も多い。
- ・世銀、MDB、IMFに対する信頼、期待・・・国内改革の必要性の認識、国内説得の必要、指導層の親近感等。

新興国の借り入れ条件の推移

Yield of 10-year benchmark US Treasury in last 20 years



主要中所得国の貧困

(出典: 世銀ホームページ)

| 国 | 年 | 人口 (百万人) | 貧困人口の割合 (%) | | GINI係数 | |
|------------|------|-------------|-------------|---------|--------|-------|
| | | | 一日1ドル以下 | 1日2ドル以下 | | |
| 中国 | 農村部 | 2001 | 792 | 26.5 | 71.0 | 36.33 |
| | 都市部 | 2001 | 479 | 0.3 | 6.5 | 33.32 |
| インド | 農村部 | 1999 | 743 | 41.8 | 88.4 | 28.11 |
| | 都市部 | 1999 | 254 | 19.3 | 60.5 | 35.00 |
| インドネシア | 農村部 | 1990 | 123 | 26.3 | 82.6 | 26.37 |
| | 都市部 | 1990 | 55 | 7.5 | 44.9 | 34.65 |
| ブラジル | 2001 | 173 | | 8.2 | 22.4 | 59.25 |
| ロシア | 2000 | 146 | | 6.1 | 23.8 | 45.62 |
| メキシコ | 2000 | 98 | | 9.9 | 26.3 | 54.93 |
| 参考: ナイジェリア | 1996 | 115 | | 70.2 | 90.8 | 50.56 |

中所得国支援の強化論

- ・ **貧困の存在**・・・貧困人口の26%がIBRDonly国、39%がブレンド国、合計約2/3が中所得国
- ・ **脆弱な国内制度**・・・財政、税制、金融、民間部門、教育、保健等。
- ・ **急速な発展国もそれに伴う問題が深刻化**・・・インフラ、環境、エネルギー問題等
- ・ **地域内、地域間の協力強化の必要**・・・国内市場狭隘、金融監督の協力など。移民。
- ・ **グローバルな課題への対応**・・・中所得国の取り組みが鍵
(気候変動、HIV/AIDS、鳥インフルエンザ等)

具体的な政策課題(1)

1. ニーズへの対応
 - a. 借入れ国制度の援用 (use of country systems) ……2005年3月に議論
 - b. conditionality合理化……2004年秋から議論
 - c. CASの柔軟化……インド、メキシコ、モロッコ等
 - d. 新たな貸付手法 (additional financing (2005年5月), emergency financing (改定検討中))

具体的な政策課題(2)

2. Knowledge Service
Analytic and Advisory Activities (AAA)
ESW / Non-ESW, 技術支援 (TA)
3. リスク管理強化の支援
自国通貨での貸し出し、ヘッジ商品提供
4. 世銀グループのシナジー強化
Sub-sovereign貸付の検討等
5. バイやマルチ機関との連携強化

日本では慎重論が特に強い(？)

- ・日本自身の経験・・・早期卒業、最大ドナーになるなど、優等生。
- ・東アジアの成功・・・卒業生増加。他の地域も見習うべき。
- ・国内の改革の動きとの連想・・・官から民へ。
- ・経済的ライバル、政治摩擦、ドナー化への反発等。

中所得国の特徴

1. 多様性

- ・国の大きさ、地域、市場へのアクセス等に大きな開き

2. 不安定性

- ・ナイジェリア、ニカラグア・・・中所得国から転落
- ・インドネシア・・・金融危機で転落(資料)

3. 国際経済に与える影響

- ・インドネシア、フィリピン等
- ・メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、ロシア等

政策論：中所得国支援への慎重論

- ・市場アクセス可能に
- ・民間金融機関のクラウディング・アウト
- ・国際機関の貸出文化改革の必要
- ・援助依存から自立への動きへの悪影響
- ・貧困国支援の取り組みへの悪影響

中所得国貸出鈍化の要因

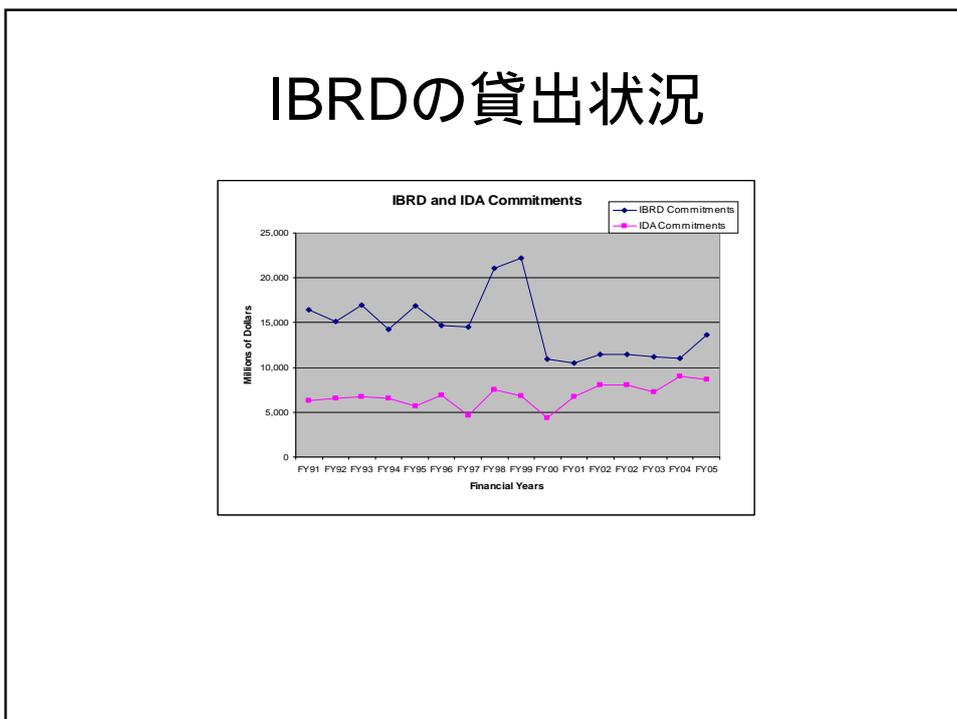
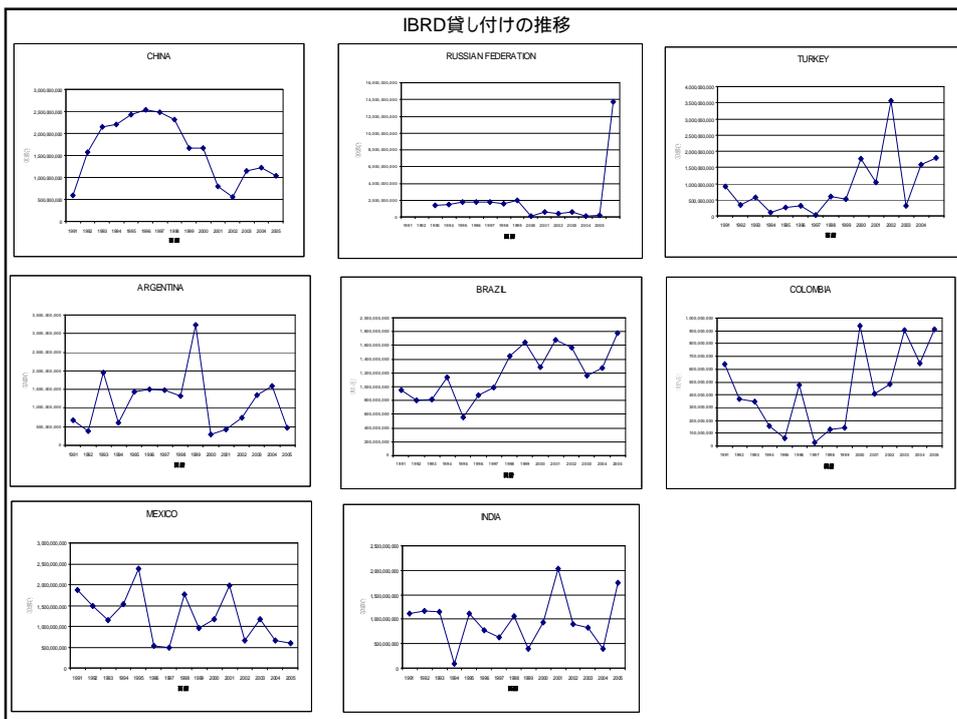
1. 借入国側の要因

累積債務問題、民間金融市場の発達、他のMDB等との競争、社会政策のための借入への慎重姿勢等。

2. IBRD側の要因

政策論、インフラ融資への慎重姿勢、借入コストの増加(手続き、時間、コンディショナルイテ、環境・社会セーフガードの強化等)、貸出以外のサービスの遅さ、不十分さ等。

→ 2004年3月、Management Action Plan; 開発委でも議論。その後、諸手続きの見直しやInfrastructure Action Plan等が活発化。



Thank you.